

# フォレストニュース

植林が地球を救う

平成28年(2016)11月10日

No. 107

発行 高津啓洋

## パラグアイ・レダ植樹活動

最近のレダでの活動の様子を報告します。8月中旬から10月初旬までは、植樹活動にはあまり適していません。この期間は、雨量も大変少なく、苗木の植樹には水の確保が大変です。

### 第1農場

ビクトル君が菜園のネット室に野菜類を作って、トマト、ニンジン、レタス、ピーマン、キャベツなどが収穫できました。ただし少しの隙間からも小さい鳥が入って



乾季の中パラトードは咲きました

きて、トマト、ピーマンは、いつものことですが、相当被害を受けました。

植樹用のアルガロボのポット苗を200本ほど作りました。その一部を第2植樹園の奥に少し植えたり、今まで植えていて枯れたものと交換したりと、細かい作業をしました。ミニポットで育ったアルガロボの苗を大きなビニールのポットに植え替えました。

また、大きく育ったマンゴーやラパチョの苗木を第1植樹園の中に植えました。

やむを得ず収穫して、新しい土と大工の水落さんからもらったカナナ屑を入れて畑を作りなおし、苗芋を植えました。半分は芽を出したので紐をつけて上に誘導しています。

農場内のタロイモを狙って豚が入るようになったので、農場のまわりの囲いの修理を、若手のヘルマン君にやってもらいました。豚の糞を使った肥料作りも行いまし



ニームの花が満開です

た。

育ったブーゲンビリアの苗木をメインホームの花壇と、第1植樹園、第1ゲストハウスの花壇などに植えました。

### 第2農場

タロイモ畑の草取りや最近ではカピバラのエサの食べ残しの草も運んで、集まった雑草をアセロラの畑に運んで木の周りにすきこみ肥料として置いています。

### 果樹園

ビクトル君が、ホースを3本つないで浄水場から水を引っ張ってきて木に撒いてくれましたが、日照りの日が長くすぐに乾いてしまいました。果樹園の下を通っていた農業用水の配管に一か所蛇口を設置し使えるようにして水撒きが便利になっています。

マンゴーの実がなり始めました。今年は早いうちから鳥が実をかじっています。ヘルマン君が保護用のカプセルを少しかけてくれました。

下に落ちた実は豚の餌として与えています。喜んで食べます。

グレープフルーツの苗木は順調に成長しています。

### 第1植樹園

ビクトル君が草刈機で草を刈り、アルガロボなどの苗木を植えました。

ヘルマン君は枯れ木を集めて燃やしたり、草刈りを行ったり水やりをしたりと、地道な作業です。

### 第2植樹園

昨年の国際ボランティアが苗木を植えたニームの木は比較的よく成長していますが、日本のボランティアが植えたニームの苗木は土が悪いためか成長が悪く、枯れたものも数本あります。アルガロボの苗木も、アルマジロが下を掘ったり、羊が葉を食べたりして成長はよくありませんが、何とか生き延びています。最も西の部分には、13本のアルガロボの苗木を植えました。昔植えたパロアスールが育っているあたりです。

### 第3植樹園

ここも、長いホースを使って水まきをしました。苗木は比較的順調に成長しています。

10月に入って少し雨が降りましたので、ジャカラダ、チバトなどの花が咲いています。

(10月15日 伊達記)